

会 議 記 録

会議名称	第 11 期 杉並区NPO等活動推進協議会（第 4 回）
日 時	令和 5 年 9 月 12 日（火）午後 3 時 00 分～午後 4 時 23 分 （休憩時間 午後 3 時 44 分～午後 4 時 03 分）
場 所	分庁舎 3 階 研修室
出席者	<p>【委員】 山岸、森、加藤、杉本、鈴木、井上、荻上、今井、佐藤</p> <p>【区側】 地域課長、協働推進係長、協働推進係職員、企画課公民連携担当係長</p> <p>【発表者】 杉並女性団体連絡会、区民生活部男女共同参画担当課職員</p> <p>【オブザーバー】 すぎなみ協働プラザ運営責任者、杉並ボランティアセンター所長</p>
配布資料	<p>【事前配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 11 期杉並区NPO等活動推進協議会（第 4 回） 次第 ・ 別紙 1 杉並区NPO等活動推進協議会（第 4 回）の概要 ・ 別紙 2 協働提案実施事業の中間評価について ・ 別紙 3 送付資料一覧 ・ 杉並区協働提案実施事業中間評価表 ・ 資料 1 協働提案書 ・ 資料 2 事業計画書（事業 1 年目）（事業 2 年目） ・ 資料 3 収支予定書（事業 1 年目）（事業 2 年目） ・ 資料 4 協定書 ・ 資料 5 中間評価（事業 1 年目）（事業 2 年目） ・ 資料 6 事業報告書（事業 1 年目）（事業 2 年目） ・ 資料 7 収支報告書（事業 1 年目） <p>【当日配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 団体パワーポイント資料 ・ 杉並区立男女平等推進センター利用案内リーフレット
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 協働提案実施事業の中間評価について 3 協働提案実施事業 提案団体・担当課からの事業報告 杉並区立男女平等推進センター・情報資料コーナーの整備と有効活用 ～区民がジェンダー平等について自ら調べ、学び、考えるための「場」の 充実～ 提案団体：杉並女性団体連絡会 担当課：区民生活部男女共同参画担当課 4 評価について意見交換 5 閉会

○地域課長 時間になりましたので、始めさせていただきます。

本日は、委員の皆様、全員出席でございます。

では、会長、よろしくお願いいたします。

○会長 それでは、皆さん、お久しぶりです。こんにちは。

相変わらずの残暑が厳しいですが、皆さん、本日は全員の委員の皆さんがご参加いただき、感謝申し上げます。

本日は、令和 3 年度に採択されまして、令和 4 年の 4 月から令和 6 年 3 月まで実施される杉並区協働提案実施事業の中間評価を行いたいと思います。

本日の会議は公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

この後、担当課と団体さんのほうから発表などもありますので、本日も皆さんといろいろな観点でご議論していただきたいと思います。

それでは、本日の配布資料の確認と進行を事務局の皆さん、よろしくお願いいたします。

○地域課長 では、まず、資料の確認からさせていただきます。

資料は、事前に委員の皆さんに郵送でお送りさせていただいているものと本日机上配布のものがございます。

まず、机上配布のものが本日の次第でございます。そして、事前に中間評価表を A 4 で送付しましたが、今日は A 3 にして改めて机上に置かせていただきます。その A 3 のほうの用紙にご記入ください。

そして、資料 1 の協働提案書につきましては、差替えということで、また、本日のパワポの資料とリーフレットも机上に置かせていただいております。

それ以外、事前に郵送したのも申し上げますので、もし不足がありましたら手を挙げて請求していただければと思います。

まず、別紙 1、「杉並区NPO等活動推進協議会（第 4 回）の概要」でございます。

別紙 2、「協働提案実施事業の中間評価について」という資料でございます。

別紙 3 が送付資料一覧となっております。

その一覧に書かれてございます資料 1 から 7 でございますが、まず、資料 1 の協働提案書は、送らせてもらったものから今日差替えということで、机上に配布させていただいております。

資料 2 が事業計画書の事業 1 年目、2 年目のものでございます。

資料 3 が収支予定書の事業 1 年目、2 年目のものでございます。

資料 4 が協定書でございます。

資料 5 が中間評価の事業 1 年目、事業 2 年目のものでございます。

資料 6 が事業報告書の事業 1 年目、事業 2 年目のものでございます。

最後、資料 7、収支報告書の事業 1 年目、事業 2 年目のものでございます。

おそろいでしょうか。

それでは、進行の前に、中間評価の目的について少し説明させていただきます。別紙 2 を御覧ください。

中間評価につきましては、令和 4 年 4 月の開始から令和 5 年 7 月までの協働提案実施事業の取組につきまして、本協議会が評価を行い、今後の事業の推進に向けた参考とするものでございます。

事業の評価でございますが、事前送付させていただいています資料 1 から 7 に対する書類審査と本日のプレゼンテーション及び質疑応答を併せて評価を行っていただくものでございます。

評価のプロセスといたしましては、4 の「評価の考え方」を御覧いただきますと、まず、「中間評価①」で、事業 1 年目に提案団体及び担当課による自己評価を行っております。そして、「中間評価②」が提案団体及び担当課による自己評価を踏まえた本協議会の中間評価ということで、本日、事業 2 年目の 9 月に実施するものでございます。

この「中間評価②」における本協議会としての評価及びご意見につきましては、担当課及び提案団体へフィードバックするほか、区の協働推進本部へ報告いたします。そして、今年度末の事業終了後、令和 6 年の 5 月頃に、提案団体及び担当課による自己評価を踏まえて、本協議会の最終評価を行いまして、こちらも同様に担当課及び提案団体へフィードバックするほか、区の協働推進本部へ報告するという流れで進めたいと思います。

次に、本日の進行についてご説明いたします。別紙 1 を御覧ください。

この後、提案団体と担当課による事業報告 15 分、その後、委員との質疑応答 10 分を予定してございます。

質疑応答の後、委員の皆様は中間評価表にご記入いただきまして、その後、休憩に入ります。事務局で休憩中に集計作業を行いまして、その後、15 時 45 分再開予定で、集計結果の報告、評価についての意見交換を行いたいと思っております。

お手元の中間評価表と別紙 2 の 2 の「評価方法」を御覧ください。

評価項目ごとに 5 段階で評価点をおつけいただくことになってございます。右側のコメ

ント欄につきましても記入をお願いいたします。

休憩後、事務局から集計結果と評価をお伝えいたします。評価は、事業全体の平均点に応じたAからEまでの5段階といたします。その後は、中間評価表にご記入いただいたコメント欄のコメントを中心に、委員の皆様で評価できた点、評価できなかった点、今後期待したい点について意見交換を行っていただきます。

事務局からの説明は以上となります。

それでは、会長、お願いいたします。

○会長 ご説明ありがとうございます。

まず、皆さん、資料のほうはそろっていますでしょうか。大丈夫でしょうか。

今日の目的といたしましては、今後の事業の推進に向けた参考ということで、書類審査とプレゼンテーション、質疑応答を行った上で私たちの評価をしていくということになります。

ご質問等はございませんでしょうか。

では、今、課長からご説明がありましたように、この後、提案団体にお入りいただきまして、プレゼンテーションを行うことといたします。

では、提案団体、また担当課の皆様、お入りいただきたいと思います。

繰り返しになりますが、事業名は「杉並区立男女平等推進センター・情報資料コーナーの整備と有効活用～区民がジェンダー平等について自ら調べ、学び、考えるための『場』の充実～」ということになります。

提案団体は、杉並女性団体連絡会、担当課は区民生活部男女共同参画担当課の皆さんとなります。どうぞよろしく申し上げます。

団体からの事業報告は15分、また、委員から10分の質疑応答となります。

それでは、ご準備をよろしく申し上げます。

これから15分間の報告を始めたいと思います。よろしく申し上げます。

○杉並女性団体連絡会 それでは、杉並区立男女平等推進センター・情報資料コーナーの整備と有効活用について、中間報告を行います。

本日報告を担当いたしますのは、杉並女性団体連絡会の協働提案事業事務局を担当しております石坂、原、田村、そして私、鳥生になります。どうぞよろしく申し上げます。

では、パワーポイントのほうを御覧ください。

この杉並区立男女平等推進センターは、杉並で唯一の男女共同参画の拠点施設です。荻

窪一丁目にあります。そして、この中に情報・資料コーナー、3,500冊の蔵書と行政資料、地域資料などを有します。

ここは杉並区民の貴重な学習の場であり、いろいろな図書や資料が所蔵されており、区民が自ら調べ、学び、理解を深める、小規模ではありますが、専門図書館として大きな役割を担っています。しかし、現状、その役割が十分に果たせていないということで、今回、私どもはこの協働提案事業を提案させていただきました。

どんな課題があるか。このセンターの中心でもある図書室、情報・資料コーナーの本が探しにくい。本を整理する専門家がない。そして、所蔵する図書資料を区民に知らせる機会が少ないということで、十分に役割を発揮していないというのは、端的に言いますと、利用者が少ないということです。

それに対して私たちが考えた目標は、まず、情報・資料コーナーをより使いやすくし、図書や地域資料を活用する。情報・資料コーナーの利用満足度の向上、利用者の増加。そして、最も大切な本質的なことは、区民のジェンダー平等に関する理解増進ということがあります。

私たちはこの事業を昨年4月にスタートいたしました。最初の事業は図書整備です。3,500冊の図書は、この間、独自の分類番号で大変分かりにくいものでしたので、それを公共図書館と同じ、日本十進分類法に一新するというので、3,500冊の本全てを見直して分類を付与いたしました。そのためにウィメンズプラザなど、他区のセンターにも学習に訪れて、貴重な知識と経験を学びながら進めてまいりました。

5月から7月は、付与された分類を棚別に、新しいラベルを作成しました。そして、全ての本にラベルを添付して、取りあえずもとの書棚に戻し、それから7月、8月、全ての本を一旦取り出して、それを分類番号順、著者名順にこの交流コーナーの中でそろえました。そして、そろえた本を分類順に本棚に戻すという作業、特にコロナが最盛期だったので、人員がなかなかそろわないこともあり、大変でしたが、頑張りました。

8月にはその書棚に整理した本をさらに見やすくするために、差込表示、棚見出し、書架側面パネルなど、図書館にとっては非常に大事なサインといえますが、表示になるわけですが、いろいろな表示を更新いたしました。

そして、8月から11月は一般図書以外の行政資料と地域資料の目録化。行政資料は男女共同参画白書、行動計画など、ここは男女平等推進センターですので、その性格に合う行政資料を精査して整理いたしました。古い資料、また、定期刊行物、雑誌などは、書棚の

ほうのスペースを空けたいということもありましたので、それまで使われていなかったロッカーに収納、このロッカーの表にかかっている段ボールの表示は私たちが手作りいたしました。地域資料は、主に杉並区の女性を中心とするいろいろなグループ、団体の活動記録です。現在も収集中であります。

この図書整備の事業の途中で岸本区長も来館し、「ジェンダー平等、大事です」ということで、話が弾みました。

そして、10月29日には図書整備が一段落したということで、図書見学ツアーを行い、その後、引き続いて、このセンターの書棚に入っている本を1冊ずつ選んで読書会を行いました。

その上で、いよいよこの蔵書の有効活用の事業を始めました。まず、ブックリストの発行。これは、区内の図書館、学校、区民施設などに広く配布するもので、全体のテーマは「SDGsの目標を理解する」ということで行っています。

これがブックリストの構成ですが、これまでに隔月で9号出しました。皆さんのお手元にもそのうちの何号かが配布されていると思います。

蔵書有効活用の2つ目の事業はレファレンスです。レファレンスというのは本を探すお手伝いですが、毎週土曜日に担当者が情報・資料コーナーにいて、利用者の質問に答える。また、併せて、パス・ファインダーというものがあるんですが、その作成を行いました。

これは、レファレンスの受付で利用者を待っている情景です。

そして、パス・ファインダーというのは、このようにキーワードからこの館内に所蔵されている本を紹介するということで、リストのような資料を今いろいろなキーワードで作っているところです。ここに紹介されているのは、「男性の育休」というキーワードで、じゃ、どんな本があるかというのを知らせる資料です。

蔵書の有効活用の3つ目の事業としては、読書会、講演会を行いました。なるべくたくさんの人に来ていただくために、現在まで月1回から2回、いろいろな形の読書会を実施しました。また、読書会の内容と結びつけて講演会も行いましたし、今後も予定があります。

まず、読書会の形式としては持ち寄り、自由な本を持ち寄って紹介し合う。それから、テーマ読書会といって、ジェンダー平等、フェミニズム、戦争と平和などとテーマを決めて本を持ち寄るということもやってみました。

次に、一冊の本というのは、同じ本をみんなで読み合っ感想を述べ合うということ

す。

読書会は、毎回参加者の方たちに感想を書いていただき、このような記録を残しています。

そして、読書会と併せて講演会、既に1回実施しましたが、「82年生まれ キム・ジョン」という韓国で非常に評判になりました、韓国フェミニズムの出発点と言われている小説を読書会で2回読み合わせして、最後に翻訳者の斎藤真理子さんをお呼びしました。大変に盛況で、これを行った集会室が満杯で、お断りせざるを得ない方もたくさんありました。

蔵書有効活用の4は図書展示及びパネル展示。これは、センターの図書を主に外部で区民に広く紹介したいということで始めましたが、センターで行った部分もあります。そして、毎回の展示では、参加型で興味を引く工夫というのを行いました。

まず、初年度の11月、「女性に対する暴力をなくす運動」、いわゆるDV防止月間ですね。中央図書館の2階ロビーにて図書展示、そして、引き続き区役所ロビーにて図書展示。この図書展示に併せて参加型の企画ということで、このDV防止のシンボルとなっているパープルリボンというのがあります。ちょうど12月にかかるクリスマスシーズンだったので、布でこのクリスマスツリーの台紙を作って、大勢の区民に参加してもらい、パープルリボンを貼ってもらいました。最後はもうびっしりです。

それから、翌年の3月、「国際女性デー」、これは男女平等推進センターにて行いました。場所は狭いですが、非常に充実した図書展示になりました。

センターにはいわゆる貴重本というものがあまして、今まであまり公開されず、見る人が少ない状態で保管されていたんですが、それをみんなに見ていただくということで、「青鞥」という本の全巻、「日本の婦人雑誌」は明治時代に出された女性向けのいろいろな雑誌の復刻版ですが、これを展示いたしました。

そして、パネルは自分たちで作成し、年表「国際女性デーの歩み」、資料「青鞥創刊時の時代背景」といった大きなパネルを作成しました。

また、参加型の企画としては、輪読会、平塚らいてうの「元始、女性は太陽であった」という「青鞥」の発刊の辞の輪読会を行って、大変好評でした。

次の6月、「男女平等参画週間」、まず、区役所ロビーにてこれも図書展示。このときは東京都のウィメンズプラザからも一部図書をお借りしました。また、パネル展示も女性差別撤廃条約に関する説明を主に描いたパネルで、私たち自身の制作です。それ以外にも、

他のセンターからお借りしたパネルや区の所有するパネルなど、大変に充実したパネル展示を行いました。

そして、参加型の企画としては、女性差別撤廃条約をアピールするパネルを作って、そこに皆さんでハートを貼り付けていただくと、お子さんも喜んで協力してくれました。そして、こういう展示をやって分かったことは、非常に対話が生まれるということです。見てくださった方といろいろな話も弾みました。

次に、蔵書有効活用の5、中高生。私たちの拠点施設は、1階が中高生の施設になっています。そこで、1階のゆう杉並利用の中高生に本を紹介しようということで、ジェンダー平等、性教育、LGBTQ、DV、自分を守る法律等々、本を選んで、毎回5冊から8冊ほどの貸出展示を行っています。隔月です。

成果を簡単にご紹介します。目標①の情報・資料コーナーを使いやすくし、図書や地域資料を活用するということでは、先ほどお話しした図書整備でいろいろな工夫を行い、使いやすさがアップ。また、読書会、講演会、展示会などでは、センターの図書資料を十分に活用いたしました。活用度アップ。

目標2、情報・資料コーナーの利用満足度の向上、利用者の増加というところでは、利用状況としての数字を幾つかご紹介します。

初年度の統計、そして、括弧内は過去4年の平均値との比較になりますが、利用者数は約1.6倍、図書貸出冊数は約2.9倍、図書カードの新規登録者が約2.41倍ということで、利用者が増加しました。そして、利用者増加につれて何度も訪れる方も増えたので、満足度もアップしたと考えています。

イベント参加人数は、読書会、講演会の参加者が延べ227人。展示のほうは、参加型の企画、輪読会とか、リボンを貼っていただくということで、876人という数字が挙がりました。この人数から、センターの認知度がかなり上がったと考えています。

そして、目標3、区民のジェンダー平等に関する理解を深めるという意味で、これは大変大きなテーマですが、結論的には、ジェンダー平等をテーマに様々な企画を実施し、多くの区民が参加して、区民のジェンダー平等に関する理解増進に貢献できたと私たちは考えています。

この点について、もう少し詳しく参加者、利用者の感想などをご紹介したいと思います。まず、レファレンスは毎週土曜日ということで、計46回実施しました。ジェンダー平等やLGBTへの関心の高まりの中、目的を持ってセンターを訪ねる方が増えた。

相談事例は、例えば中学生の男子が卒業論文作成に当たってテーマを考えているというふうに相談をしてくださって、それに私たちもお話をして、結局、「男性の生き方」、「男らしさ」といった本を「男性学」というところから探して借りていった。また、中学生の女子が、幼児期からのジェンダー平等教育について知りたいということで来館され、それに対しては館所蔵の絵本を数冊紹介しました。また、40代の女性がLGBTの本を探しに来たり、30代子ども連れ的女性が防災のことを知りたいということで、「女性の視点から見た防災」の関連の本をご紹介することができました。

次に、読書会は先ほど行った様々な形式で計16回、毎回5名から13名、といっても、5名が一番最初の1回だけで、あとは大体10名以上、ジェンダー平等、多様性などをテーマに様々な本を取り上げ、そこに継続的に男性の参加があったり、10代を含め幅広い年代の参加がありました。80代の男性からは、この本に出会わなければ女性の大変さが分からなかった、日本の男性全てに読んでほしい。40代の女性は、1人で読むだけでは通り過ぎてしまう読書が自分の知識になったというお話がありました。

講演会は参加が56名、参加者の年齢層も幅広く、この講座で男女平等センターを初めて知ったので、これから活用したい。また、子育てや仕事に悩みながら主人公と自分を重ねられたというような意見も多数。そして、男性の参加が、ここに「6名」と書きましたが、8名。日本のフェミニズムが遅れている理由が分かったとか、極めてよい内容だった、もっと広い会場を用意してほしいなどの感想がありました。

図書・パネル展示、先ほど言ったように、直接参加する部分のカウントですけれども、11月は543名、3月の国際女性デーは40名、6月は293名と多数の参加がありました。そして、非常に対話が生まれました。また、本人や友人のDVの被害についての相談もあり、それを聞いて相談窓口を紹介することもできました。国際女性デーをテーマとする企画は杉並では初めてだったので、意義があったと思います。また、展示中に最新のジェンダーギャップ指数が発表され、日本はなんと125位。この数字をめぐって対話が増えました。そして、女性差別撤廃条約が男女共同参画社会を進めるための有効なツールになるということも伝えられました。

それ以外にはブックリスト、区民にコーナーの本を知らせることができた。それから、1階の児童青少年センターへの貸出展示は3回、中高生たちに本を紹介できたという中で、ジェンダー平等の理解増進を深めるのに大いに役立ったと自負しております。

今後の予定は全て当初の計画どおり実施します。スケジュールはこのとおりです。

その中の大きな企画としては図書・パネル展示、11月にもう1度「女性に対する暴力をなくす運動」の展示を阿佐谷地域区民センターで行います。3月は「国際女性デー」、これは男女平等推進センターで行います。

また、著者を囲んでの講演会は10月29日（日曜日）、柚木麻子さんをお招きします。3月9日（土曜日）は村木厚子さんをお招きします。ぜひ皆様にもご参加いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

これで私の報告を終わります。ご静聴ありがとうございました。（拍手）

○会長 どうもご説明ありがとうございました。

それでは、この後、委員による質疑応答を行います。

これから10分間、質疑応答を行いますが、ご発言のある方、挙手にてお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

プレゼンのほうは十分拝見しましたが、提出していただいています中間評価（事業2年目）、今年の7月までの分を拝見すると、区の担当の方からの分ですと、1番目の「協議の機会」のところはCのランクになっていて、2年目は十分な協議の機会を持っていないというコメントがあり、提案団体のほうからもこの「協議の機会」については、双方忙しいため、協議の機会が十分に持っていないということで、やはりCの評価となっています。

さらにもう1つ、提案団体のほうでは5番の「対等性」のところ、本事業は図書整備が重要な目的の1つとなっているので、選書、寄贈本受入れ、除籍等については積極的に取り組んでほしいということで、やはりCの評価になっているので、ここのCという、どちらとも言えないことになっている理由をご説明いただければと思います。

○男女共同参画担当課 Cとなっている理由なのですが、まず、「協議の機会」としましては、少し後ろ向きの話になってしまうんですけども、実は4月にこの係の係長、主査、それからもう1人の担当職員が全て代わりまして、5人中3名が人事異動で変更になりました。加えて、お聞きになったかもしれないんですが、性の多様性条例を4月から施行した担当係でもありまして、そういったものを全て引き継ぎながら進めていたところで、情報を全部集約して杉女連さんとの打合わせを持つ機会がなかなか時間的にも厳しかったところなんです。これは言い訳になってしまうんですけども、そういった時間的な制約が厳しいところもあって、なかなか打合わせの機会が十分にとれなかったなというところがあります。

それから、図書についても同じですね。どういう状態なのか見に行ったりとか、資料を確認したりする中で、廃棄については区のほうとしては一番最後と考えていたところもあり、そのあたりが団体さんとうまく連携がとれなかった問題点でもあるかなと思っております。

ただ、ようやく今年、4か月、5か月たってしまいましたけれども、信頼関係もできてきていると思いますし、これまでの資料も十分読み込んでまいりましたので、今後半年間、十分協議を重ねて進めていける状態かなとこちらとしては考えているところです。ただ、中間報告としては、正直なところ、これまでの結果としては十分ではなかったというところで、Cとさせていただきます。

○杉並女性団体連絡会 杉女連の協働提案事業の石坂と申します。

私たちとしても、区の方が新しくなったということで、なかなか忙しく、機会を持つことができなかつたんですが、9月に私たちはこの評価表を評価した上で、ここはやっぱり力を入れないといけないというので十分に会議を持ちまして、今後の展開がスムーズに行くように、双方、区の団体も私たちも確認をしました。ただ、評価した時点ではやっぱり少ないという評価にいたしました。以上です。

○委員 協働事業というのは行政と民間とでお互いのいいところを出し合ってやっていくところなので、やっぱりコミュニケーションが一番大事だと思いますので、ぜひこれからも連携をとってやっていただきたいと思います。ありがとうございました。

○会長 よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

○副会長 ご報告ありがとうございました。非常に分かりやすい、図書分類を改められるというので、センターが利用はされていたと思うんですけども、十分利用者がいない中で、まさにすごく目的に沿う形で、その他に全部放り込まれるような図書をちゃんと分類して利用しやすくするというのは、私も事業成果を読ませていただいて、非常に刺激を受けましたし、これはすごいなと思って拝見いたしておりました。

今し方ご回答も頂いたところとちょっと関連するんですけども、中間評価の自己評価表を拝見すると、先ほどは行政部局とのやり取りの課題を議論いたしたところですが、例えば12番の「情報共有」で、事業の進捗状況で情報の共有と活用をしていますかという評価項目がございますけれども、区の中で担当が分かれているとか、杉女連の中で担当が分かれています、情報の共有に一部違いがあったという点で、1年目の状況、Bなのでそんな

に深刻ではないと思うんですけども、1年目、2年目で同じ状況をご指摘いただいているという点で、何か改善の方策、改善の仕方があるのかどうかというところがちょっと気になるしまして、そのあたりの詳しいご事情を教えていただければ幸いです。よろしく願いします。

○杉並女性団体連絡会 御覧のようにいろんな事業がございまして、そこで担当が重複していたり、あるいはブックリストなんかは本当に発行しなくてはいけないので、会議を重ねたりしておりますが、そこら辺で、去年と全く違う方たちとやるというところで、意思疎通が欠けていた点もあったのではないかという反省で、もう9月になりまして、私たちは本当にいろいろ協議をしているので、今後はスムーズに行くと思っております。

○男女共同参画担当課 私たち、電話や直接お会いしてやり取りすることももちろんあるんですけども、日常、データのやり取りはメールですること多いので、それまで担当同士でやり取りしていたものを、先々月ぐらいからですか、それぞれ複数の、一般的によくある話なんですけれども、「To」と「Cc」で全員に共有してやり取りすることで、情報の漏れ、むらがなくなって、そこからはかなりスムーズに進んでいると思っております。そこが大きな改善点ですね。

○委員 協働提案を頂いたときに、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）を活用した区立図書館との連携、さらに、アクセスフリーで、ほかにはない資料がここにはあるということアピールできる行政資料や地域団体資料の収集と保存、目録化を進めていただきたいとお願いしました。

ホームページを拝見しますと、一般資料の目録はありますが、地域団体や行政資料の目録がありませんでした。その点の現況をお知らせいただきたいと思います。

男女平等の風土に関して、杉並はほかの地域にも先駆けて進んでいると感じますが、逆に団体の資料が次の世代に継承されるかという杞憂があるので、その点についてお考えを頂きたいと思います。

○杉並女性団体連絡会 ほかの地域の方からも、杉並は非常に団体の活動が活発なので、これを中心として残すのがいいというアドバイスも頂いて、私たちは取り組んでいるんですが、やはり高齢の方がいらしたりしているので、資料収集は着々とはしているんですが、なかなか困難も極めています。やはり一番の目玉だと思いますので、そこを目録化、去年も一旦いたしましたので、今後も続けていきたいと思っております。ありがとうございます。

○杉並女性団体連絡会 一応これまで整理した地域資料については、行政資料も地域資料もですけれども、目録はできているんですが、まだそれを公開するという手順には至っていません。ですので、残りの 7 か月でそういうところも進めたいと思います。

また、OPAC についてですが、これはちょっと協働提案事業の範囲内ではなかなか難しいということで、今回の事業内で OPAC とか、他の公共図書館と連携を結ぶネットワークまでは難しいかなと考えています。しかし、今後の目標として、私たちのほうからも要望を出し続けていきたいと考えています。

○委員 ありがとうございます。

NDC の分類では女性問題の解決とか、ジェンダー平等というところで 367 になります。多様な性の受容ですとか人権尊重など、現況に合わない点もあるかと思うのですが、その点についてはどのようにお考えですか。

○杉並女性団体連絡会 そこまでは私たちも専門家ではないのでよく分かりませんが、ただ、NDC のほうも 10 版ですか、一番新しい版が発行されて、今回の分類もその最新版で行いましたので、ある程度は使えるものじゃないかと思います。どうしても男女平等センターという性格上、367 が多くなるのは当然のことなんですね。ですので、全体の冊数も少ないですから、分類は基本的に 3 桁に留めました。しかし、その 367 についてはさらに詳細に分類して、367 の 1 から 9 まで細分化して、なるべく正確を期すように考えました。

○会長 少しお時間を過ぎておりますけれども、せっかくですので、委員の皆さん、いかがでしょうか。

ちょっと最後に私から、1 点ご質問をさせていただきます。本当にコロナ禍真ただ中でのご活動ということで、いろいろとご苦労されたところもあったと思いますけれども、そんな中、ご活動いただきましてありがとうございます。

いろいろなイベントをなされているということですが、参加されている皆さんはどういった方々なのか、世代とか、所属とか、そのあたりを少しご報告できたらお聞かせいただけますでしょうか。

○杉並女性団体連絡会 近々のは 7 月 1 日に講演会をいたしまして、20 代から 80 代の方まで非常に幅広い参加がありました。子育てとか仕事についての本、女性の悩みのテーマでしたので、40 代の女性が一番多かったですね。アンケートも書いてくださいました。男性も参加くださり、ご夫婦の方もいらっしゃいましたので、今回は本当に幅広い参加がございました。図書のほうと読書会のほうも、10 代の中学生の方が参加くださったこともあり、

いろいろな世代の人と読書会を重ねることが大変有効であるという感想を持っております。以上です。

○会長 今回、それに当たって何か工夫されたことはあったんですか。そういった多様な人たちが参加するに当たっての。

○杉並女性団体連絡会 読書会を2回重ねて読み込んで、そして、講演会をしたということで、毎回アピールをさせていただいたのと、やはり大変ベストセラーで、今日ここにございますが、もう文庫になった本なので、特に斎藤さんが杉並在住であり、韓国文学の翻訳者の第一人者ということで、本当に来たいということで、多くの方が集まりました。広報すぎなみとか、ツイッター（現X）もいたしまして、大変効果がありました。

○会長 分かりました。ありがとうございました。

皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。

以上をもちまして事業報告を終了といたします。事業団体の皆様も、お暑い中、どうもありがとうございました。（拍手）

委員の皆さんにおかれましては、ここから10分間の休憩といたしますので、その間に評価表のご記入をお願いいたします。ご記入が終わりましたら事務局で一度回収し、集計を行います。それでは、どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

再開は55分です。

（ 休 憩 ）

○会長 まず、今、事務局のほうから評価の結果をお配りいただきました。採点者の名前はわからないようになっていますが、点数的に、何となくこれかなというところ、お間違えないでしょうかね。大丈夫でしょうか。

それでは、この集計結果をご覧ください。このような結果になっております。評価項目の上から順番の結果で、おおむね4以上、若干3のものがあありますけれども、総合点が4.13ということで、B評価、「評価できる」といった結果にまずなっております。よろしいでしょうか。

おおむね高評価だと思います。今後に向けての何かご意見等、また、特に言っておきたいことを皆さんのほうからお聞かせいただきたいと思います。

1つ目は、特に評価できたという観点です。ちゃんと団体さんに伝えておきたい評価できる点ですね。そして、2つ目としては評価できなかった点、こういったところが課題じゃないかという点でしょうか。そして、3つ目が、今後こういったことを期待したいとい

う、以上の3つの観点で少しずつまとめていこうかなと思っております。

まず初めに、とりわけこういったところがよかったのではないかというところを、特に記録として残しておきたいご意見がございましたらお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。高得点をつけてみたものの、逆に何もないからよかったのかというところもあるかもしれません。

じゃ、まず副会長、お願いします。

○副会長 先ほども申し上げましたけれども、センターの資料はそのまま置きっ放しになりがちだったんじゃないかと思うんですよね。管理はしていますけれども、ほとんど利用されないままみたいな感じになりそうなところを、さっきの十進分類法もちゃんと最新のものを把握されたりして、活用できる状態に持っていかれたという、そのご経験からきた発想で資料センターを活性化されているということ自体がすごいすばらしいなと思いました。

もちろん成果指標という具体的な数値目標はないですけども、実際、利用者が増加しているということもあるし、読書会をやられたり、いろんなイベントを開かれて、対外的に認知度を向上させていらっしゃるというのは、まさにこれって官民協働じゃないとできなかったんじゃないかなという意味で、私はすごく高く評価させていただきました。

○会長 副会長からのご意見でありました。ありがとうございます。

その点、いかがでしょうか。私自身も、一言で言うとセンターが非常に活性化したと考えます。今回の事業内容に対して、真摯に行って、センターとして活性化したというところなのかなと思い、私も高得点をつけさせていただきました。そういったご評価で、皆さん、異議などはございませんでしょうかね。

では、計画どおり行うことでセンターのパワーアップを図ったという、目標は大いに達成できたところを評価したいというところでしょうか。ありがとうございます。

2つ目が、一方で課題といいますか、こういったところをもう少し頑張ったほうがいいんじゃないかと。そういった観点で皆様のほうからご意見はありますか。

○委員 担当部署と提案団体とのコミュニケーション不足、いわゆる対等な立場で事業遂行できたかというところは、双方に課題があったということを理解しているとの報告でした。それを分かっていらっしゃるの、ここはどうしようかなと思ったんですけども、現状の中間評価ということで点数を残すとしたら、あまり行き届いていなかったということで点数化させていただきました。しかし、信頼関係もできてきているというお話だった

ので、今後、期待は持てるかなと思います。

あとは参加者さん、イベントとか、本の読書会とか、いわゆる受益者の満足度のことについては、今日の発表でいくと、事業者の皆さんが「私たちはこういうふうを受け取っている」というようなご回答だったので、何かしら定量評価とか、数値化してみることも大事かなと思ったのと、せっかくゆう杉並の上にあるということですので、中高生の声を聞くとか、そういった仕組みを作っていきながら、このセンターの活性化をどうするかということも考えていかれるといいのかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。こちら私も同様の感想を持ちましたね。発表では、かなり主観的な感想が多かったので、このあたり、次回は私たちが納得できる数値化等を用いた、客観的な根拠で示していただければいいのかなと思います。

そして、2つ目も私も同様に思いました。若い世代の人たちへの巻き込み方というのでしょうか。来ているよというお話はありましたけれども、たまたまかもしれませんが、写真などを見ると、やはり年齢層が高いところもあったりして、こういった問題は次の世代にしっかりつないで改善していただきたい大きな問題でもありますので、新しい世代への巻き込みなども今後少し工夫をしていただきたいのかなと思ったりもしました。

ほか、いかがでしょうか。

○委員 少し関連するところですが、先ほどツイッターでという話もやり取りの中でありました。若い人、若いといっても、10代とかになるとまた全然違うコミュニケーション手段になるかもしれませんが、せめてホームページやSNSを使う世代へのリーチというところでは、その辺がもう少しできたらなと思いました。

先程の発表を聞きながら改めてネットで検索してみると、区のホームページからしか動線がなさそうでした。これだと、一般的には区のホームページを見に来る人というのはある程度知っている人になってしまうと思いますので、そのあたりを少し変えていけるといいのかなと思います。言うはやすしですが、情報発信は大事なことでコメントさせていただきました。

○会長 ありがとうございます。大きな課題だと思いますので、そういった活動やイベントの認知の仕方の工夫を必ずしていただきたいかなと思います。

私も先ほど質問すればよかったのですが、このイベントを行っている曜日や時間帯はどういうときにやっているんでしょうかねということを知りたかったかなと思いました。やっぱり限定した時間帯だと、参加される方は限定されてしまったりもしますので。分からな

かったらいいんですけども、そういったイベントの日時の工夫なんかもあれば、より参加しやすさもあるかもしれません。どうもありがとうございました。

いかがでしょうか、ほかに。

○委員 その認知度というところから言うと、さっきもご意見が出ましたけれども、図書館の検索と同じシステムにして、基本的には資料センターの活性化なので、それだけではないとしても、原点はここなので、必要な書籍を探しているときに、ここの男女平等推進センターにあるよというのが分かることが何といても利用者を増やす要因になると思います。今日のプレゼンでもお話にあったように、この協働事業の中にはその部分は入っていないということだったので、恐らくシステムの改善とか、そういったところで結構予算もかかったり、いろいろ制度的に難しいところもあると思うので、そこはぜひ区のほうとして、ここの活用という意味では図書館の一般的な検索の中でできるようなところをぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

あとは評価ですけども、今回は利用者数がどれぐらい増えたか、1.何倍ということでしたけれども、多分、過去平均値と利用者数、貸出冊数とか出ているので、一応数値的な評価はやろうとされているんだと思います。確かに増えていることは間違いのないと思うので。定性的なものについては、そもそも評価方法はなかなか難しいところがありますけれども、単なる書籍を十進法何たらに変えて並び替えましょうというだけなら委託事業でも何でもできると思うんですけども、こういう読書会とか、その後に講演会とかいう形でジェンダー平等のことについてやっていくという意味では、非常に頑張ってやっているのかなど。単なる営利企業との連携だけではできないんだろうなとは思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。団体に限定した要求というよりかは、区の行政側としても、そういったSNS等の使い方とかも含めて、少し伴走していただけるような役割も求めていこうかなというところでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。

最後、今の課題と同じような含みも持ちますが、今後期待したい点というか、何かエールなども独自に送っておきたいなというようなお言葉がありましたら、ぜひお聞かせいただければと思います。

○委員 目標の③の「区民のジェンダー平等に関する理解と意識向上に役立つこと」という点に関して、そういった問題に対して意識が高い方とそうでない一般の方の差がすごく

激しいと思いますので、こういった取組がクローズドにならないように、一般の方をどういうふうに巻き込んでいくかというところはすごく重要になると思います。

○会長 ありがとうございます。事業内容はこういった整理とかイベントなのかなと思いますけれども、その目標としてもやはりそういったところを掲げられていますので、活動が限定されないといったところを少し意識してくださいということをお伝えしたいということでしょうか。これは先ほどの広報の在り方とか、そういったところにもつながるのではないかと思いますね。どうもありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

○委員 ジェンダー平等と男女平等を今どう理解していったらいいのか、日頃から気になっているところですのでこの協働提案にはとても考えさせられました。

例えば「りゅうちえる」というタレントが結婚、出産を経て子育て中に性自認への違和感などから離婚をしました。その後、SNSを通じて猛烈な批判にさらされた後に自殺したことが報じられました。この事案に限らず、男女という2つの項の課題ではない、多様性理解についての障壁の前で悩んでいる人は少なくないと思います。そういう課題にこれから対応してくださるのはこのセンターだと思います。

そのためには、所蔵資料の図書から課題を見つけて、講演会を企画していくことに加えて、現実の中にある課題をジェンダーの視点で整理して、対話関係を再構築することが重要だと思います。資料コーナーにも合本がされていましたが、「婦人学級」とか「社会教育」は話し合い、対話を学習にしていた経緯があります。もう一度そこから始めてほしいなと思います。次世代に杉女連の皆さんの気づきをつなげていくためには啓発ではなく伴走という位置が望まれるのではと思います。

○会長 大変重要なお意見ありがとうございました。事実は分かりませんが、りゅうちえるさんのことは私も大変胸を痛めたところでもあります。

確認ですが、今回の意見というのは、この所管課にも伝えられるものですね。今の委員の冒頭の話にもありましたけれども、今回、所管課が男女共同参画担当ということで、これはやっぱり女性だけの地位を向上しようという話じゃなくて、みんなが一緒になって意思決定していこうとか、取り組んでいこうとか、そういったところを目的とする部署の事業でもありますので、そういった方法、ムーブメントをこの所管課のほうでも起こしていけるようにして欲しいという要望として残しておくことも大事なのかなと思います。

本当に多様な人々がちゃんと生活できるような、そういったところの出発点がこのセンターになるような働きかけができるように、所管課のほうでもしっかり取り組んでほしいというご意見でいかがでしょうかね。ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。どうでしょうか。

○委員 私も今の委員のお話にすごく賛同するんですけども、この名称は絶対変えられないんですかねというのがちょっとあります。名称というのは、この「男女平等推進センター」。前もそんな話題が出たかもしれません。「男女」ではない枠組みだし、これを聞いて、この冊子をパッと手にとったときに、それを全然イメージできなかつたんですね。お話をきいて、やっと「なるほど」と思いましたので、またネーミングを根本的に見直すのもどうかななんて思いました。

○会長 こういった名称とかというのは、今までのスタイルとして、現代にもこの名称がそのまま使われているということで、今、行政のほうも多分すごく大きな課題の 1 つでもあると思うんですね。こういう名前の在り方というのは。

○地域課長 法令で使われている言葉であれば、簡単には変えられないと思うのですが、そうでなければ所管で検討することもあるかと思います。

○会長 多分、杉並区が今後、そういう多様な参画とかも考えていってほしいというところを、先ほどと同じように、これは所管課のほうで考えるべきことなのかななんて思いますので、意見として残しておいていただきたいと思いますね。

ほか、どうでしょうか。よろしいでしょうかね。

では、以上のご意見を踏まえて、少し事務局のほうでまとめていただきます。せっかくいただきました皆様からのご意見がしっかり反映されるよう私も責任を持って確認したいと思います。

これで以上となりますが、よろしいでしょうかね。

最後に、全体的にご質問、ご意見等がありますか。こちら大丈夫でしょうか。

事務局のほうからご連絡事項をお願いいたします。

○地域課長 皆さん、今日はお疲れさまでした。次回が10月19日（木曜日）の午後7時からということで、夜になってしまいますが、場所はここになりますので、よろしくお願ひします。

内容は、今年度の協働提案実施事業が1件出てくる予定なので、それについてのプレゼンとヒアリング、あと皆さんからの意見聴取ということで進めたいと思いますので、よろ

しくお願いいたします。

○会長 それでは、第 4 回杉並区NPO等活動推進協議会を閉会といたします。ありがとうございました。皆さん、引き続きお気をつけてお過ごしください。お疲れさまでした。

—— 了 ——